

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100052		
法人名	社会福祉法人 麗沢会		
事業所名	グループホーム花の里かるまい		
所在地	〒028-6302 事業所住所 岩手県九戸郡軽米町大字軽米22-42		
自己評価作成日	令和7年9月10日	評価結果市町村受理日	令和7年12月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中心街から離れた郊外の高台にあり、老健施設と隣接、小規模多機能ホームと併設している事業所です。事業所の周りには東屋から見渡せる広い庭があり、桜、芝桜、ツツジ、紫陽花、紅葉を楽しめます。現在も新型コロナウイルス感染症の影響で外出は制限をしていますが、職員が様々な屋内行事を企画し、利用者様に楽しい時間を過ごして頂いております。職員は介護福祉士や医療的ケア修了者、認知症実践者研修修了者等の有資格者が多く、10年以上勤務している職員が70%を超えています。定期的な研修により知識・技術の向上に努め、利用者様が安心・安全な生活を送れるように努めています。災害時には各事業所が連携を図り、自家発電機、非常食を共有できる体制を確保しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、郊外の高台に立地しており、同じ法人が運営する老人保健施設に隣接し、また、小規模多機能ホームとの併設であることから、安全管理における連携などの協力関係が確保されている。法人として、職員の資質向上に尽力し、介護福祉士などの資格取得が顕著であることから、利用者の安心・安全につながる介護が実践されている。事業所として、町主催の認知症講座に職員を講師として派遣する取り組みや理念の理解と実践のためのグループワーク、身体拘束廃止や虐待防止のためのアンガーマネジメントなどの研修、介護計画作成に活用する「カンファレンスシート」の作成など、介護現場に寄り添った効果的な取り組みが進められている。コロナ禍を経て、地域とのつながりを深める取り組みが期待される中で、誠実な介護支援の実践を通じ理念にある「住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気の下、ともに笑い自分らしさを表現できる暮らし」が提供され、利用者、家族からの信頼につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年10月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎年、理念についての研修を行い、共通の理解ができるよう取り組んでいる。玄関前や共有スペースに理念を掲示し、日々意識出来るようにしている。また、理念の中の言葉を抜き出し、2項目に対し個人の目標を掲げ取り組んだ。年度末には個人目標を振り返る機会を設けた。	事業所開設の際、皆で話し合っった理念を玄関など目につきやすいところに掲示し、常に意識しながらの介護支援に努めている。また、理念の理解と実践に活かすためのグループワークが行われており、職員は年度初めに個人目標を設定し、年度末に振り返る取り組みが行われるなど、理念を共有し実践に活かす仕組みができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内の床屋さんが来所されての散髪や地域のスーパーからの買い物代行や食材購入にてつながりをもっている。地域への外出の機会を増やし、ユニバース・オドデ館・ミルみるハウス等へ利用者様と一緒に買い物に出かけた。地元中学校へのペットボトルキャップやプルタブの寄付を行っている。今年は中学校の体育祭への招待を受け参加を予定していたが、天候が悪く参加出来なかった。町民文化祭への作品の出品も、グループホームとして参加した。	コロナ禍が収まりつつあり、町民文化祭への参加や地元中学校行事など地域との交流が始まっている。町主催のオレンジフェスタの認知症講座の講師として講座を通じて事業所を紹介するなどの取り組みも行われている。しかし、以前行われていた介護老人保健施設との協力によって作成した「健康だより」の町内会への配布が中止になっていたり、立地的な課題もあって地域とのつながりが課題となっている。	中心街から離れた場所に立地していることやコロナ禍などにより、地域とのつながりに不利な状況にあるものの、地域に情報発信していくこと、運営推進会議委員の活用など地域との関わりについて、更なる取り組みを検討していくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町の認知症カフェ「かだある茶屋」や認知症サポーター養成講座(小学生・一般向け)への職員派遣をしている。町主催のオレンジフェスタかるまいでは、認知症講座に職員2名が講師として参加した。また、岩手県立大学の看護実習生を毎年受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1度開催。職員も順に参加し会議がどのように行われているか把握できるようにしている。避難訓練や行事に合わせ開催し、委員の方にも参加していただき助言をいただいている。	併設の小規模多機能ホームと共同で2か月毎に開催されている。委員として地域包括支援センター職員や地域住民の代表としての民生委員、町内会長、知見を有する方に出席してもらい、様々な意見をいただいている。以前、利用者家族の代表にも参加していただいていたが、出席が難しいこともあって参加を求めている。ヒヤリハットや事故の報告、家族等からの意見や感謝の言葉などが会議の席で報告されている。また、会議に合わせて避難訓練を実施し、気づいたことなどの助言をもらい、業務に反映されている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や認知症カフェ・キャラバンメイト活動時は町の職員が参加しており、情報交換をしている。町より利用者の紹介を受けたり、入居の空きの間い合わせもある。介護保険制度の疑問点などは、二戸広域や町へ照会し、指導や助言を受けている。	町が主催し毎月行われる地域ケア会議に、併設の小規模多機能ホームのケアマネジャーが出席し、会議内容を回覧している。町や広域事務組合からはメールや電話で業務に関する各種情報の提供があり、必要に応じて照会し助言等をもらっている。町の担当者からは利用者の紹介や空き具合の間い合わせもあり、密接な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる事案はない。玄関の施錠は日中に行っていない。外に行きたい時は出来るだけ付き添い、散歩をしたり、外と一緒に眺めたりしている。委員会を中心にスピーチロックやアンガーマネジメントの研修を行った。R7.3月～検知センサー見守り機器の導入により、居室内の利用者の動きを把握し拘束せず対応出来ている。	身体拘束をしないための指針が定められ、虐待防止と合わせて委員会を開催し、年2回の職員研修が実施されている。研修は、アンガーマネジメントの一環としても行われ、スピーチロックについて、日頃の何気ない行動の振り返りを行い、場面想定での演習が行われている。また、職員にわかりやすくするために標語形式としてまとめるなどの工夫も見られる。身体拘束の無い、利用者に寄り添った介護の実践につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	委員会を中心に、不適切ケア(グレーゾーンのケア)について研修を行った。事例の紹介をしたり、自事業所で当てはまることはないか、気を付けるべきことはないかを出し合い検討を行った。また、「接遇」についての研修を行い表情・声掛け・態度など気を付け対応する事が必要であると確認をした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在グループホームでは制度の活用をしている方はいない。日常生活自立支援事業や成年後見制度についての資料の回覧等を行い学びへつなげている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、料金、サービス内容についての説明は丁寧に行っている。不安や疑問はいつでも話していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置している。また、家族来所時・サービス計画書変更時・電話時に意見や要望を伺うようにしている。利用者の方からは、普段の会話の中での意見や要望の吸い上げを行っている。出された意見・要望・苦情は検討を行い、対応策を実施している。その内容については玄関へ掲示している。	利用者には関心の高い食事についてのアンケートを行い結果を反映させている。家族には、2カ月に1回、写真付きで様子を知らせる「家族さんへの通信」をお届けして感謝の言葉をいただいている。家族の来所時やプランの説明時などに意見を伺うように努めており、意見や要望、感謝の言葉はまとめて運営推進会議でも報告し、玄関に掲出する取り組みも行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議の際、併せて業務改善会議を開催し、業務上問題となっている事、設備に関する事などを出し合って話し合い、対応を検討している。会議だけでなく、その都度職員は意見を言う機会も多い。一例として、入浴介助時の暑さ対策として、マスク使用の解除・職員の水分補給のためのスポーツドリンクを用意し熱中症予防とする事とした。	毎月の職員会議などで職員からの意見、提案などを聞いている。個別面談は非正規職員だけ雇用継続の関係で行っている。職員からの相談は副管理者が窓口になることが多く、管理者に伝えられて対応が検討されている。暑さ対策や設備、資格取得についての提案などがあり、優先順位をつけて可能なものから意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員会議等を通じ、職場環境の整備を図っている。勤務状況に関しては、個々の諸事情を考慮し出来る限り柔軟に対応している。資格に応じた手当の支給をしている。手当等の改定の際は、都度職員へ説明し内容の回覧を行い周知をしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護プロフェッショナルキャリア段位制度の取り組みを行っている。グループホーム・小規模多機能と合わせてアセッサーが2名・レベル認定を受けた者が7名。自身の日々のケアを見直す良い機会となっている。医療的ケア研修・実践者研修等、外部研修へも派遣している。オンライン研修へも参加行っている。内部研修は、各委員会が中心となり定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	いわて地域密着型サービス協会に所属している。感染症の流行や開催地が遠方であった為、協会の研修会には現在参加していない状況である。近隣のグループホームと電話での情報交換をしたり、助言を受けたりする機会があり交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談時に困っている事などを十分に確認し、支援へつなげるようにしている。表情や言葉遣いに注意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の思いを受け止め不安や要望、困っている事など十分に聞き取り、安心して利用していただけるようにしている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人や家族が何に困っているのか聴くようにしている。入居困難な場合は、他のサービスなどへ助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の方と共に生活をしているという認識である。状況を考慮したうえで、家事や掃除等出来ることを手伝っていただいている。役割を持っていただけるよう取り組んでいる。いつも感謝の気持ちを伝えるようにしている。職員が利用者へ助けられている場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	2ヶ月に1度の家族通信にて生活の様子や健康状態についての報告を行っている。対面での面会も行っている。また、外出希望時は家族対応にて行っている。マスク着用・人混みを避けて出かけるようお願いしている。他に、リモートでも面会が出来るよう整備している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	家族対応にて自宅や郵便局へ出かけている方もいる。町内の馴染みの床屋さんへ出かけ、パーマや髪染めをされる方もあり。また、家族と電話をしたり、誕生日や母の日に宅配便で贈り物が届く方もある。小規模ホームの利用者(馴染みの方・親戚・友人)とも交流されている。	コロナ禍以降、馴染みの人や場所との関係が希薄になりがちであるが、家族の協力を得て外出する利用者も複数あり、入居前からの馴染みの床屋さんに出かける方もいる。併設の小規模ホームに馴染みの知人等が訪れ、会話を楽しむ様子も見られる。月に1回、移動図書館が来訪した際に図書を借りる利用者もあり、馴染みの継続の機会を増やすように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他利用者と会話をし話の聞き役になって下さっている。エプロンをかけてあげたり、洗濯物を一緒に畳んだりと協力されている場面も見受けられる。利用者間の交流が図れるよう、職員が間に入り会話の橋渡しを行っている。利用者間の関係により、座席の配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	何か困り事がある場合は、相談に乗る旨をお話ししている。利用中の写真のデータが欲しいとの希望あり。対応する事あり。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの会話から、出来る事ややりたい事を聞き取るようにしている。表情や行動を観察し、思いを汲み取れるようにしている。申し送り、会議、日誌、ケア記録等で職員間での情報共有を図っている。	利用者の多くが言葉で思いを確認することができず、耳の遠い方などもあり、寄り添いながら表情や仕草から意向を把握するように努めている。一人ひとりに「私の暮らし方シート」が作られており、本人の思い、家族からの情報、職員の気づきなどがまとめられており、ケアの実践に活用されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族・前担当ケアマネージャーから情報を得るようにしている。居室担当者が中心となりこれまでの暮らしについて把握に努め、情報の共有に努めている。昔の写真を見ながら以前の生活の話題にも触れ知る事も出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	状態の観察を行い、本人の意向を確認しながらやりたい事をしていただいている。ケア記録、日誌、チェック表など活用し情報共有を図っている。変化がある場合は、こまめにケア記録へ記入を行っている。できる事、できない事を把握し共有しながら関わっている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は6か月に1回見直しを行っている。本人・家族へも今の思い、要望・希望を聞き把握している。居室担当者を中心に、看護師の意見も踏まえカンファレンスを行っている。心身の状態の変化や、転倒等の事故があった場合などは都度見直し、必要に応じプランの変更を行っている。	介護計画は基本的に6か月ごとの見直しとしており、状況の変化には素早く対応している。プランの項目ごとに毎日の状況を○×で評価し、看護師などの意見を書き込む「カンファレンスシート」を作成している。計画作成担当者と居室担当者を中心に全員で話し合っって作成し、家族にも丁寧に説明し了解を得て介護支援、計画実践となっている。	「カンファレンスシート」は介護計画の項目毎に毎日の利用者の状況の評価しております。看護師の意見も書き込まれ、達成率も算出し、職員が共通の理解をし、適切なケアを実践するツールとなっております。今後ともこうしたモニタリングを継続され、介護計画をチームで作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	プログラムチェック表用い、毎日プランが実施されているのかをチェックしている。また、ケース記録や日誌を活用し、職員間で情報の共有を行っている。それらを介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	買い物など本人の希望があれば、好きなものを代行して購入している。家族が対応できない場合は、事業所で購入の対応をしている。本人・家族のニーズに応じた対応を心掛けている。アメやお菓子の他、ノートやペンなどの文具を購入する方もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の床屋さんに来所してもらっている。なじみの関係になっており、会話を楽しまれている利用者様も多い。一人暮らしだった利用者の方は、親戚や近所の方などのサポーターがおり外出や受診が出来ている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は基本的に家族対応としているが、必要に応じ送迎を行ったり、付き添い介助を行っている。家族対応での受診の際は、最近の様子をまとめた用紙を作成し、医師へ情報が伝わりやすいように対応している。事業所で受診の対応をした場合は、必ず結果を連絡・報告し、情報の共有に努めている。	利用者の多くは協力医療機関の県立病院をかかりつけ医としており、事業所として付き添い介助を行う場合もあるが、家族による受診を基本としている。医療機関への情報提供のための文書を用意して家族に持参してもらうなど、かかりつけ医との連携が図られている。隣接の介護老人保健施設の看護師の助言を得られる状況もできており、利用者の適切な医療の確保につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	隣接する老健看護師が非常勤で勤務し、利用者の状態把握に努めている。日誌や口頭で情報を共有し、状態変化ある際は都度、報告・相談をしている。内服薬について、下剤の調整・皮膚トラブルの相談こまめに行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報共有シートの活用、入院に至るまでの経緯を報告している。入院中も病院関係者と情報交換を行っている。電話にての情報収集も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合における対応に係る指針を作成しているが、現在までに看取りは行っていない。入居時に重度化や終末期についての意向を伺い、都度確認を行うようにしている。隣接する老健や協力病院と連携を図り支援している。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成しているが、事業所内の医療体制が確保できない状況のため看取りは行っていない。利用者、家族には入居時に説明して了解を得ており、万が一の場合は救急車による病院搬送を想定している。重度化の場合、他施設への入居申し込みを勧めているほか、隣接の介護老人保健施設との連携を図り、終末期の介護に努めることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故防止委員会を中心に、緊急時対応のフロー・緊急連絡網を整備し、電話口に常備している。喀痰吸引については、吸引器の取り扱いについての手技の研修を年に数回行い、全職員が急変時に慌てず行動出来るよう物品の準備を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練を行っている。日中・夜間の火事を想定している。1回は消防立ち合いにて実施、もう1回は運営推進会議の際に実施し、委員の方々に評価していただいている。隣接する老健とも連携を図り、取り組んでいる。発電機や非常食を老健と共有している。2月の夕方の暗い時間に灯りを消し、職員同士で避難経路を実際に確認する機会を設けた。	ハザードマップ上水害のリスクは低いことから、火事や地震を想定した避難訓練を年2回実施している。うち1回は消防署の立ち合い、もう1回は運営推進会議に合わせて行っている。また、前回の外部評価を踏まえ、夜間想定での訓練を薄暗い時間帯に行ったところ、ヘッドライトの角度のことや懐中電灯を持つての車椅子移動が難しいことなどの新たな気づきがあり、今後に活かしたいとしている。避難場所の隣接する介護老人保健施設とは、備蓄など協力しながらの対応が可能になっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的に研修を行い、接遇やプライバシーの保護について再確認を行っている。介護施設ではプライバシー・個人情報と密接に関わるということを忘れずに、十分に気を付けていく事としている。	職員により呼び方は異なるが、多くの職員は親しみを込めて下の名前にさんを付けて呼ぶようになっている。入浴やトイレの介助では、人格を尊重する配慮を欠かすことはない。利用者を尊重する目的で接遇などの研修にも取り組み、理念にある「自分らしさを表現できる暮らし」の実現に努めている。ケース記録などの個人情報はキャビネットに収納され、外部に持ち出されることができない管理となっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思確認を行いながら希望や思いを汲み取るように心がけている。本人が選んだり、決められるよう声をかけ支援している。普段から話しやすい雰囲気作りに努めている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の意思確認を行いながら声をかけ、本人のペースにて過ごしていただいている。無理強いせず、時間をずらしたりし本人の希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の好きな服を選んでもらったり、季節や気温を考慮し声掛けをしている。定期的に床屋さんに訪問をお願いしている。男性は、毎日電気シェーバーで髭剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は委託をしている。昼食のメニューがリニューアルされ、季節のメニューやご当地のメニューなどが取り入れられ利用者様の楽しみに繋がっている。レクや行事ではおやつ作りを行い喜ばれている。(ベビーカステラ・バナナシェイク・五平餅等)毎日ホワイトボードへ献立を書き、それを見て食事を楽しみにされている方もいる。食器拭き・おしぼりたたみお手伝いいただいている。	隣接の介護老人保健施設とともに6年前から外部に調理を委託し毎食配送されている。利用者の食べたいものなどはアンケート調査によって委託業者に伝えられ、メニューに反映されている。握り寿司、祝膳、季節や行事に応じた料理などが提供されている。おやつは利用者と職員と一緒に作ることもあり、天気の良い日にはサンデッキでティータイムを行うなど食事を楽しむことができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	老健の栄養士の管理の元、カロリー栄養のバランスはとれている。刻みやお粥、ミキサー(ソフト)食の対応は都度状態に合わせて行っている。チェック表を活用し、摂取量の把握に努めている。むせ込みやすい方には、水分にとろみをつける対応をしている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後、本人の状態に応じて、声掛け・見守り・介助にて行っている。義歯は洗浄剤につけたり、うがいが出来ない方はウエットティッシュにて口腔清拭の介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来るだけトイレで排泄が行えるよう、排泄チェック表を活用し、声掛け・誘導を行っている。しぐさや表情を確認し、誘導を行っている。日中・夜間でパッドの大きさを変えている方もいる。現在はリハビリパンツ使用7名。(そのうちトイレへの誘導・介助を行う方5名)他に排泄動作が自立されている方でも、トイレ周りを汚す事が多い為都度確認を行っている。	排泄チェック表を活用した自然な声かけ誘導が行われ、3人はほぼ自立している。おむつの使用、夜間のポータブルトイレの使用もなく、全員がトイレ利用となっている。夜間、居室における転倒防止のため3月から見守り機器「ネオスケア」を導入し、利用者の安心や安全につながる取り組みを始めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事・水分摂取量についてチェック表を活用し、把握している。ヨーグルトや牛乳の提供を行っている。飲み物も好みの物を選べるよう、希望を聞きながら対応している。また、事業所内や外の散歩をし、運動の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている。	入浴は週2回で曜日を決めているが、希望や拒否がある場合は、柔軟に対応している。状態に合わせて小規模多機能ホームに設置されている機械浴の対応を行っている。季節を感じられるよう、菖蒲湯・ゆず湯を企画している。個浴である為、本人の思いを聞く大切な時間となっている。	週2回の入浴とし、本人の意向によって日曜日でも、午前午後どちらでも入浴できるよう柔軟に対応している。一般浴が難しい利用者は併設の小規模多機能ホームの機械浴を使用することもあり、毎日の足浴が必要な方もある。季節に応じて菖蒲湯、柚子湯を企画して好評を得るなど、職員との会話をしながら入浴を楽しむことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活リズムや体調に応じて過ごしていたい。室内の温度管理や明るさに気を付けている。こまめに本人への確認を行い対応している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	事業所で管理をしている。食事の際、職員2名にて確認し服薬介助をしている。薬の内容についてはケース記録へファイリングを確認している。また薬変更時は日誌や申し送り等で情報共有をしている。薬の箱に薬の名前・用量を記載し、セット間違いが起こらないよう取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食器拭き・洗濯たたみ等、毎日のご自分の仕事として手伝って下さっている。また、花や野菜を植え、水やりや草とりを行ってくださる方もいる。カラオケが好きな方もあり、行事の際は盛り上げ役として参加して下さる方もおられる。一人ひとりに合わせた過ごし方が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	感染症の流行により、外出の機会はなかなか持てない状況であったが、今年度は徐々に外出の機会を増やしている。日常的には、事業所周辺の散歩を行い気分転換を図っている。二戸市までの桜の花見や町内ドライブへ出かけたり、老健の花見物を行っている。また、事業所内での過ごし方を充実させる為に、委員会を中心に夏祭りや運動会の開催をし、利用者の方々からは好評であった。楽しんでいただけるよう工夫し支援している。	事業所周辺の畑を見に行ったり、隣接の介護老人保健施設での花火見物などで戸外に出ることもある。日中、サンデッキでの日光浴、ティータイムとして外気に触れる時間を楽しむことができている。また、ドライブとして花見や買い物の機会があったり、中学校行事や町文化祭への参加など、コロナ禍を経て、ようやく外出の機会が増えてきており、工夫しながら支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族と相談し、ホーム預かりや本人持ちとして、個々の希望に合わせて対応している。小遣い帳を付け、2ヶ月に1度家族通信の送付に併せて家族への報告を行っている。また、本人の希望がある場合、代行し購入している。ドライブでの買い物時、支払いができる方はご自分で行っていただいた。自販機で自分で飲み物を購入する機会もあった。		

事業所名 : グループホーム花の里かるまい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人・家族から希望があれば対応している。週に数回家族へ電話をかけている方もおられる。郵便物についても、家族へ確認しポストへの投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは天井が高く開放感がある。写真やレク活動で作成したものを飾っている。写真はまとめ見れるように工夫している。デッキに出て外を眺めたり、花を飾ったりと季節を感じられるようにしている。ホールや各居室にはエアコン・床暖房があり、適切な温度を保てるように配慮している。清掃・消毒・換気はこまめに行っている。	エアコンと床暖房、加湿器で空調が整えられたホールは天井が高く、明るい清潔な環境が保たれている。行事の際の写真、利用者が作ったパステルアートの作品などが飾られているほか、季節の飾り付け、今はハロウィンに関するもので装飾されている。利用者は好きなどころに腰かけ、居心地よく過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールには、ソファ(3人掛け×2)や食事・作業用テーブルを設置している。それぞれが思い思いの場所で過ごされている。併設の小規模多機能ホームまで廊下を散歩される方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはクローゼット、床頭台、ベッド、エアコンが備え付けられている。家族の写真や作品を飾ったりしている。テレビ・ラジオを持参されている方もおられる。小物類(置時計、ぬいぐるみ、神社の御札など)なじみの物を置き、少しでも居心地の良い場所を作るように支援している。	居室には、ベッドとクローゼット、床頭台などが備えられており、エアコンで室温等が整えられている。利用者はそれぞれ馴染みの時計やぬいぐるみなどを持ち込み、家族の写真や自分で作ったものなどを飾っている。神社の御札を貼って毎日のお務めを行う方もあり、安心して過ごす環境が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室が分からない方には扉に大きく名前を付けたり、トイレには張り紙をしている。室内は段差もなく、共有スペースには手すりを設置するなど、安全に配慮している。転倒予防の為、動線に物を置かないように環境の整備を行っている。		